

議 事 録

会 議 名	第 2 回 羽曳野市総合基本計画等審議会		場 所	羽曳野市役所 A 棟中東会議室
出 席 者 (敬称略)	事務局	羽曳野市政策企画部 金森部長、松村課長、片岡課長 補佐、升本課長補佐、山中主 幹、宮崎主幹 ランドブレイン株式会社 平野、市原	日 時	2025年10月5日 14:00～16:30
			開 催 方 法	対面による会議
審議会 委員	会長	大阪産業大学教授 吉川 耕司		
	副会長	羽曳野市商工会会長 原 誠		
	【 1 号委員】 市議会議員	市議会議員 黒川 実		
		市議会議員 阪本 菜津代		
		市議会議員 笹井 喜世子		
		市議会議員 通堂 義弘		
		市議会議員 花川 雅昭		
	【 2 号委員】 学識経験者	大阪大谷大学教授 岡島 克樹		
		大阪公立大学教授 小川 亮		
		四天王寺大学教授 原田 保秀		
	【 3 号委員】 市民代表	羽曳野市更生保護女性会副会長 安部 演子		
		四天王寺大学学生 綾野 眞悠		
		大阪大谷大学学生 伊東 賢伸		
		羽曳野市社会福祉協議会会長 浦田 崇		
		羽曳野市教育委員会教育長職務代理者 奥野 貞一		
		羽曳野市健康づくり推進協議会会長 加藤 治人		
		藤井寺公共職業安定所所長 川崎 弘人		
		大阪南農業協同組合営農部課長 塚本 哲也		
		近畿日本鉄道株式会社古市駅駅長 森 憲一		
会議資料	・ 資料 1 - 1 基本構想素案 ・ 資料 1 - 2 委員アンケート(まちの将来像)結果まとめ ・ 資料 1 - 3 将来像の組み合わせ等について ・ 資料 2 令和 6 年度 転入転出者アンケートについて ・ 資料 3 - 1 第2期総合戦略の効果検証 ・ 資料 3 - 2 第2期総合戦略進捗報告 ・ 資料 4 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子 ・ 参考資料 総合基本計画の全体像について(基本計画の施策体系案)			

議事	
発言者	発言内容
事務局	【次第１】開会 定刻となったため、第２回羽曳野市総合基本計画策定審議会を開会する。雨天のなか出席に感謝する。本審議会は原則公開であり、記録・撮影を行い後日公表する。市議会改選に伴い委員の交代があり、新たに通堂委員、阪本委員が就任した。本日は定足数を満たし審議会は成立した。傍聴者はなし。以降の進行は吉川会長にお願いする。
吉川会長	【次第２】会長あいさつ 前回は市民アンケート結果や基本構想の案について意見をいただいた。本日は基本構想素案および第３期総合戦略素案の説明がある。国の「地方創生 2.0」は、人口減少を前提に、都市と地方が支え合う社会の構築を目指すものであり、本市の戦略もこの考え方を踏まえる必要がある。活発な意見交換を求める。議事に入る。
事務局	【次第３】議事事項 （１）基本構想（素案）について （事務局から基本構想素案について、概要を説明）
岡島委員	素案では「市民・事業者・行政の連携」「共創」「持続可能な地域経営」等を掲げるが、共助に関する現状分析が乏しい。市民公益活動団体の状況、地域のつながりの実態、他市比較など、共助を支える基盤の把握が必要である。防災でも自助・共助・公助の連携が不可欠であり、現状分析と市の姿勢を明確化すべきである。
事務局	市民アンケートで「行政・市民・事業者が一体で進めるべき」との回答が 45.3%で最も多く、具体分野では交通、安全安心、地域で暮らし続ける環境、子ども・子育てが上位であった。共助の視点が求められていることは把握している。
岡島委員	アンケートは重要であるが、それに加え、地域のつながりや団体数・活動状況等の客観データも示すべきである。共助・連携・共創について、市としての分析と対応方針をより具体化してほしい。
伊東委員	将来像の副題案に「ウェルビーイング」を用いることへの躊躇が示されているが、定義が曖昧ならば審議会で議論して定義を整えればよい。今後の扱いを問う。
事務局	ウェルビーイングは古くからの概念で重要と認識するが、指標化と目標設定の難しさがある。国も統一指標を示し切れていない。将来像での用語採用は慎重にしつつ、計画の各分野で具体化を探る。測定のためには市民意識調査の頻度や設計の見直しが必要と考える。
吉川会長	用語のわかりやすさと市民への伝わり方も踏まえ、概念の内実化と表現の両立を検討していただきたい。
阪本委員	将来像の案である「ハビタットはびきの」については、ずっと入って来ないところがある。市民の方から見て分かりやすいものとなっているのか。

事務局	ハビタットは生物の生息地という意味と人間の居住地の双方のニュアンスがあり、国際機関等でも使用されている単語ではある。ここに「はびきの」の語感の親和性と、自然の豊かさと暮らしやすさのイメージを込めているが、確かに説明されてはじめて分かるところがあるので、その点も踏まえ、一旦市内部で再度検討を進めたい。
吉川会長	まちづくりに関わるものであり、市長の方針との整合性等もあるだろう。引き続き、検討をお願いしたい。
事務局	(2) 転入転出者アンケートについて (事務局から転入転出者アンケート結果の概要について説明)
奥野委員	資料2、9ページにおいて「教育環境が充実している」が上段で100%なのに、下段に「教育環境が充実していない」があるのは矛盾ではないか。
事務局	上段は「住みよい側」と回答した人における評価で100%が教育環境を肯定。下段は「住みにくい側」の人の不満項目であり、母集団が異なるため矛盾ではない。
阪本委員	住みよさの改善では、長所の伸長と短所の是正のどちらに重心を置くべきか。
事務局	双方が必要である。従来の行政単独対応には限界があり、今後は市民・事業者との協働で不足部分を補い、強みは価値創出につなげる。
小川委員	標本の抽出方法と属性の偏りを確認したい。回収者の年齢構成が母集団とずれていないか。
事務局	一定期間内の転入・転出者に郵送依頼した。20～30代の回答数が多く、40～60代は相対的に少ない。回収の偏りは留意点であり、年代分布等の注記を付す方向で検討する。
通堂委員	富田林等の公共交通の状況と比べ、羽曳野の交通利便に関する相対評価を踏まえた検討が必要である。
事務局	地域別・自治体別のクロス集計は今回十分ではない。今後の分析強化課題とする。
花川委員	アンケートは地域ごとにとっているのか。
事務局	地域ごとにアンケートはとっていない。
綾野委員	資料2、9ページにおいて上段に「子育てしやすい環境が充実」の項目が見当たらないのはなぜか。
事務局	設定漏れである。実データでは「住みよい側」の回答者は当該項目も肯定が多数であり、資料を修正する。
奥野委員	教育環境の内訳（施設設備、教育内容、教員対応等）は把握しているか。
事務局	設問は総称的であり、詳細までは把握していない。今後の設計改善課題である。
塚本委員	資料2、9ページにおいて「地元の新鮮な野菜や果物、特産品が豊富」への意見の相違は、地域差や流通手段の不足が影響している可能性がある。この辺りの解消に向け、移動売り場等が必要となるかもしれないが、市としての見解はどうか。
事務局	この点も同じく、居住地域の設問設定をしておらず、詳細がつかめていない。今後の

	設問設定や施策検討の材料としたい。
原田委員	基本構想の将来像と施策の柱の整理が重複し分かりにくい。図表のレイアウトも前期基本計画と後期基本計画で施策全体を2つに割るように見え、誤解を招く。
事務局	方向性（基本構想）と具体（基本計画）の階層を明確化し、表現・用語の重複を整理する。前後期での項目は同一だが見せ方を改善する。 （３）第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について （事務局から総合戦略の効果検証を行った結果と取りまとめについて説明）
岡島委員	総括は一定の成果を示すが、より厳格な自己評価が必要である。D・Eと評価されている項目の共通要因を分析し、次期戦略に教訓として明示すべきである。DXの実感との乖離にも配慮し、総括コメントと今後方針の整合性を図るべきである。
事務局	D・Eと評価されている項目の要因分析と総括表現の見直しを行う。DXの観点も再整理する。
西川委員	「ビジターセンター来所者数」のKPI設定が実態と乖離している。万博等を見込んだ右肩上がり設定のままE判定では、真の課題が見えにくい。宿泊施設が市内にないことが根本課題であり、誘致に向けた制度・規制面の整理が必要である。
事務局	KPIの妥当性を再検討する。宿泊施設の不足は課題として認識しており、検討を進める。
伊東委員	目標値と実績が乖離しているものや、早期に目標を達成して、その後伸びが止まっている事業もある。道の駅来場者数やガイドンス施設来訪者数の目標は高すぎる一方、自主防災組織編成率の目標は低い。策定時の数値設定はどのように行ったのか。
事務局	コロナ後の道の駅の来場者数については、大阪・関西万博の開催も控えていたことから高めの目標設定としたが、コロナウイルスの影響もありE評価となった。自主防災組織の編成率については、市が補助金等を制度化したことにより近年急上昇しており、目標の引上げを検討する。
黒川委員	待機児童「0」の算定方法に疑義がある。希望園に入れないが待機に計上されない「保留」の扱いなど、実態を反映しているか確認してほしい。
事務局	所管課確認の上で再検証する。
西川委員	6次産業化の「商品開発数」の中身を問う。
事務局	いちじくドーナツ、UHA 味覚糖との連携による忍者飯シャインマスカット味、シャインマスカットのプチマフィン、油かすパウダー調味料の4件である。
阪本委員	空き家バンクの活用が進んでいない。周知と制度運用の実態はどうか。
事務局	宅建協会や民間との連携に軸足を移した結果、バンクの数値は伸び悩んだ。目的は空き家解消であり、実効性の高いスキームに資源を配分した経緯がある。 その他、「地域しごと支援事業受講者数」についても伸び悩んでいるが、これは「就労マッチングフェア」という、より効果の高い取り組みにシフトした結果であり、指標

	としては下がっているが、事業目的全体としては前進しているものもある。 そういった点も指標設定の難しさであると感じている。
浦田委員	生活者視点として、小中高大の学びの連続性が重要である。高校の存続問題を含め、持続可能な教育環境の検討を望む（意見）。
小川委員	転入・転出比率の KPI が 10 年平均で評価されると、後年の努力が反映されにくい。 3 か年平均などの指標工夫を提案する。
事務局	地方創生開始時点からの平準化意図で平均化したが、見直しを検討する。
吉川会長	KPI は本質を完全には捉えきれず、目標設定の適否が評価を左右し得る。手法の限界の明示と次への反映が重要である。
事務局	（４）第３期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について （総合戦略骨子案について、要点を説明）
笹井委員	新庁舎整備に関連し、東西に長い市域での一極集中を避け、各地域で行政手続が完結できるよう DX を徹底すべきである。
事務局	オンライン申請や証明書交付の拡充を進めている。国の支援も活用し、分散的サービス提供を検討する。
黒川委員	出産医療の受入余力が不足している。府と連携し、妊産婦が適切に出産できる体制整備を要望する（意見）。
安部委員	高齢ボランティア団体の会員減少と財政難で活動機会が縮小している。参加費や出店料負担の重さが壁である。東大阪市で行っている介護現場での「スケッター」等の仕組みを参考に、地域で高齢者が活躍できる仕組みづくりと支援を求める。
岡島委員	横断視点に「市民団体」を明確に位置付けるべきである。KPI 設定も第三者的視点を入れると実効性が高まる。
吉川会長	本日の意見を踏まえ、基本構想・総合戦略の表現や KPI 設計を調整されたい。
事務局	（５）その他 次回は 11 月 11 日 19 時予定。進捗により第 4 回と合わせる可能性があるため、日程は追って連絡する。
吉川会長	【次第４】閉会 本日の審議の終了にあたり、原副会長からも一言いただきたい。
原副会長	交通・道路、宿泊等の基盤整備は長期戦である。来訪者の関心は高いが、市内での滞在目的が弱い。市・観光局・市民が一体となり、魅力づくりと「市民をその気にさせる」戦略が重要である。
吉川会長	事務局は意見を反映し、自己検証と改善を進められたい。出席に感謝する。